

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教務委員会

(責任者名) 山田 昌尚

(役職名) 副校長(教務担当)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>全分野の学生に対し応用基礎レベルの科目を開設している。プログラム構成科目の選択科目については、当該科目の履修を妨げないように時間割を編成することで、学生全員がプログラム修了要件を満たすことが可能な体制となっている。修得状況については、教務事務システムにて、各授業担当者が入力した出席情報及び評価点をクラス担任や所属分野の教員に共有している。修得状況に課題のある学生に対しては、教員のオフィスアワーを活用してフォローできる体制になっている。</p>
学修成果	<p>各授業担当者および教務委員会にて単位取得の状況が把握されている。教務委員会で実施している授業評価アンケートのうち「教員の説明や教材の利用が適切で授業内容を理解しやすかったか」「レベルや進度は、自分にとって適切であったか」「授業を受けることでこの教材や分野に関する興味関心が増したか」の項目によって授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を教育プログラムを含めたカリキュラムの評価・改善に活用している。</p> <p>また、MoodleやWebClass、JupyterHub等のLMSおよびマイクロソフト社MS365のTeams、Forms、SharePoint等を活用し、履修者の学習状況をサポートしている。</p> <p>さらに、履修者の授業への出席状況は学内の教務事務システムにて管理され、クラス担任や所属分野の教員に授業への出席等、学習成果の情報は共有されている。</p> <p>成績評価については、教育活動の評価および改善を所掌する本校教学IR室とも連携し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業評価アンケートにより、学生は学習・教育目標の達成度の自己評価をおこなっている。教員は、これらの結果から学生の授業内容の理解度を把握することができている。アンケート結果に対して担当教員からのステップアップ提案書を作成し、学生および教職員に公開することで授業改善を図る仕組みになっている。これまでのアンケート結果より、本教育プログラム受講学生の理解度は高いと判断できることから学修成果が示されている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラムに関わる科目を主に必修科目で構成することで、学生の履修および修得を促している。選択科目については対象学生全員が履修できる時間割としており、事前ガイダンス等で十分な内容説明をおこなっているとともに、授業評価アンケートで得られた結果を事前ガイダンスで紹介して受講推奨に活用する方針としている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>関連科目の全学的な履修率は必修科目で対象学年において100%である。選択科目「生産システム工学(5年生)」については、対象となる機械工学分野・電気工学分野・建築学分野の5年生に対し、事前の周知期間が短かったこともあり履修率約16%となっているが、令和7年度は履修率約31%(履修登録)と増加しており、十分な学生周知・説明により履修率向上を見込んでいる。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>令和6年3月に本プログラム(リテラシーレベル)を修了した学生のうち、卒業生においては企業・大学等から十分な評価を得て就職・進学をしている。</p> <p>全分野の4年生が履修する科目「複合融合演習」の最終報告会(ポスター発表形式)では、本校の地域振興協力会会員企業の方を招き、取り組み状況について活発な質疑応答がおこなわれた。また、本校卒業生に対する就職先企業・団体および進学先大学へのアンケートでの意見を参考に、教育プログラムの内容および手法について検討・改善を図っている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>各科目の授業において、データやAIの社会での利活用について示すとともに、実データを用いた演習等を含むことで「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解させている。また、学生自ら調査して扱う実データを課題とする機会を設けており、学生のモチベーション向上に繋がっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>主に授業評価アンケートや就職先企業・団体および進学先大学へのアンケートでの意見を参考に基づく授業改善を継続すること、最新の情報・動向を常に意識して授業に取り入れることで、本プログラムの内容・水準を維持・向上しながら、より分かりやすく、学生が自ら学び興味を持てる授業を実現している。</p>